



Japanese
Prefectural
Association of
Southern
California

www.JPASC.org
www.Kenjinkai-Kyogikai.org

南加県人会協議会

幾山河

JPASC Ikusanga Newsletter



No. 334

March/April 2015



『佐賀から世界へ』

3月8日(日)リトル東京ダブルツリーホテルにおいて、「南加佐賀県人会創立 110 周年記念式典および佐賀県海外使節団 5 期生歓迎会」を無事終えることが出来た。ロサンゼルス日系コミュニティーからは、津田領事、青木日系商工会議所会頭、小林県人会協議会会長をはじめとする大勢の方々、また、佐賀県からは激戦となった知事選挙に勝利され、就任されたばかりの山口知事が初の海外公務ということで佐賀県庁職員6名とともにかけつけてくださった。

会場内に設置されたブースでは佐賀牛をはじめとする農産品や酒、地酒や銘菓などが振舞われた。当会がこのような大きなイベントを開催するのは約 10 年ぶりであり創立 100 周年記念式典以来であった。州外在住の県人会メンバーも多数かけつけてくれた。出席総数は 150 人。

『佐賀県海外使節団』の歓迎会では、佐賀県出身、あるいは県内在学中の大学生、高校生の応募者から厳しい

審査を経て選ばれた大学生 8 名と高校生 2 名の構成であった。

同研修を通じて参加した学生たちが得た経験や人脈が今後の人生を変えるきっかけになってくれればと南カリフォルニア佐賀県人会は心から願っている。今後は参加した海外使節団経験者が主体となり、この素晴らしい海外使節団事業を末永く継続していけるように日米両サイドでの組織化を目指したい。



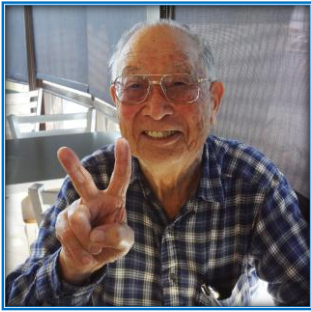
山口知事と飯盛南加佐賀県人会会長

県人会の活動に関しても同じである。これからはもっとたくさんの若い県人会会員獲得を目指し、会のさらなる発展を目標に頑張っていきたい。

南加佐賀県人会会長
飯盛 裕介

■ 人生に乾杯！ 協議会の人物めぐり ■

第1回は、協議会の「顔」、三宅明己氏にインタビューしました。2015年4月某日、すがすがしい天候のもと、年期の入られたゲートボールで爽やかな汗を流された後のインタビューでした。



に貢献できたこと。

3 現役ではどんなお仕事を？ 農業

4 家族構成は？

35年前に奥様と死別、現在長男夫婦・孫・曾孫の6人家族で暮らす。

5 日々の生活や趣味は？

ゲートボールが趣味。29年前に日本からゲートボールを当地に普及定着しようと紹介された当時からゲートボールに打ち込んでいる。

6 三宅氏といえば「サンキュー・ベリー・マッチョ」と元気な「大きな声」が印象的だが「大きな声」が出る秘訣や健康法は？

「大きな声」は、祖先からもらったもので特別な秘訣はなし。但し、健康法としては、アロエを皮のまま食べる（ぎざぎざの箇所は除く）。アロエをよく噛む→唾液が出る→胃に入ると甘くなる（イメージする）。逆に甘いものを食べる→ど越しは甘いが胃に入ると苦くなると思っている。

7 尊敬する人物は？

先輩・後輩を尊敬する。朝のお祈りの時に先輩・後輩に毎日感謝し手を合わせている。どなたにも手をたずさえて感謝の気持ちを伝えるようにしている。

8 人生の岐路は？

今までに3つの大きな岐路があった。

#1: 満州開拓団に行かなかったこと。

帰米2世の三宅氏は、4歳で家族と故郷の広島に帰った。小学校を卒業し農学校に通っていたが、同級生の多くは満州開拓団として旧満州に渡るようになっていた。一緒に行くつもりだったが、父親が「自分が生まれた場所を一度見てきたらどうだ」と米国に送り出してくれた。満州に渡った同級生はその後、兵隊となり多くが亡くなった。

#2: 強制収容所に入らなかったこと。

米国に来て4年目の1941年12月、日本と米国の戦争が始まる。翌年42年の2月、大統領の発令により、太平洋に隣接する地域に移住する日系人12万人が内陸部の10箇所の収容所に強制的に移動させられた。例外は自主的に内陸に転居する人たちは強制所に入らなくてもよかった。帰米2世としての考え、立場やキャンプに入るとお金を稼ぐことが出来ないなどの考えから、ユタ州ソルトレークに自主的に転居する道を選ぶ。昼は農場、夜はホテルの皿洗いをして働いた。

#3: 日系社会に参加したこと。

多くの人と知り合い、人脈ができたこと。

9 やり直したいことがあればそれは？

日本の精神・大和民族のなくして欲しくないすばらしい教育、考え等の子・孫に受け継いで欲しいと願ってきたが、伝える教育があまりできなかったこと。

10 若い世代における言葉は？

伝統ある協議会を長く継続し存続させて欲しい。

11 好きな言葉は？

「感謝」と「ありがとうございました」。

三宅氏は現在96歳、今年8月に運転免許の更新テストがあるとのこと。「合格を目指して勉強し100歳まで運転をしたいです」と少年のように目を輝かしている姿が印象的でした。三宅さん、インタビューありがとうございました。（文責・写真：北垣戸 和恵）

■■■ ONE POINT SERIES ■■■

美しい日本語 第1回（百人一首より）

春すぎて 夏来(き)にけらし 白妙(しろたへ)の
衣(ころも)ほすてふ 天(あま)の香具山(かぐやま)

持統天皇 「新古今集」夏・175

持統天皇（じとうてんのう。645～702年）は天智天皇の第2皇女で、天智天皇の弟の天武天皇に嫁して皇居となりました。夫の死後、皇子・草壁が28歳の若さで死んだために持統天皇として即位。政策面では、刑部親王や藤原不比等らに命じて法令集「大宝律令」を編纂させるなど、奈良時代の政治の根幹を固めました。

持統天皇が政治を執り行っていた藤原京からは、東南の角に、「天上から降りてきた」という神話のある香具山が眺められ、「ああ、いつのまにか春が過ぎて夏がやってきたようね。夏になると真っ白な衣を干す天の香具山に、衣がひるがえているの見えるから」。と唄ったのでしょうか。夏の訪れが山の緑と布の白さで象徴される、とても爽やかな歌です。

■■■ JPASC EVENT ■■■

第13回ロサンゼルス日本国総領事杯ゴルフトーナメント
Consul General of Japan in L.A. Cup 13th Annual Golf Tournament



Date: Friday, May 29th, 2015
Place: Montebello Golf Course
Info: jpasc2015golf@gmail.com or
www.JPASC.org/event.html

新幾山河第2号をお読み頂きありがとうございます。本年度2015年より議事録と幾山河は別々に発行されています。新幾山河について皆様からのご意見や感想をお寄せ下さい。

なお、この幾山河はウェブサイトからダウンロードできます。

www.JPASC.org/media.html 幾山河をクリック。

連絡は、紙本マイク (mikekamimoto@yahoo.com)まで。

幾山河編集部